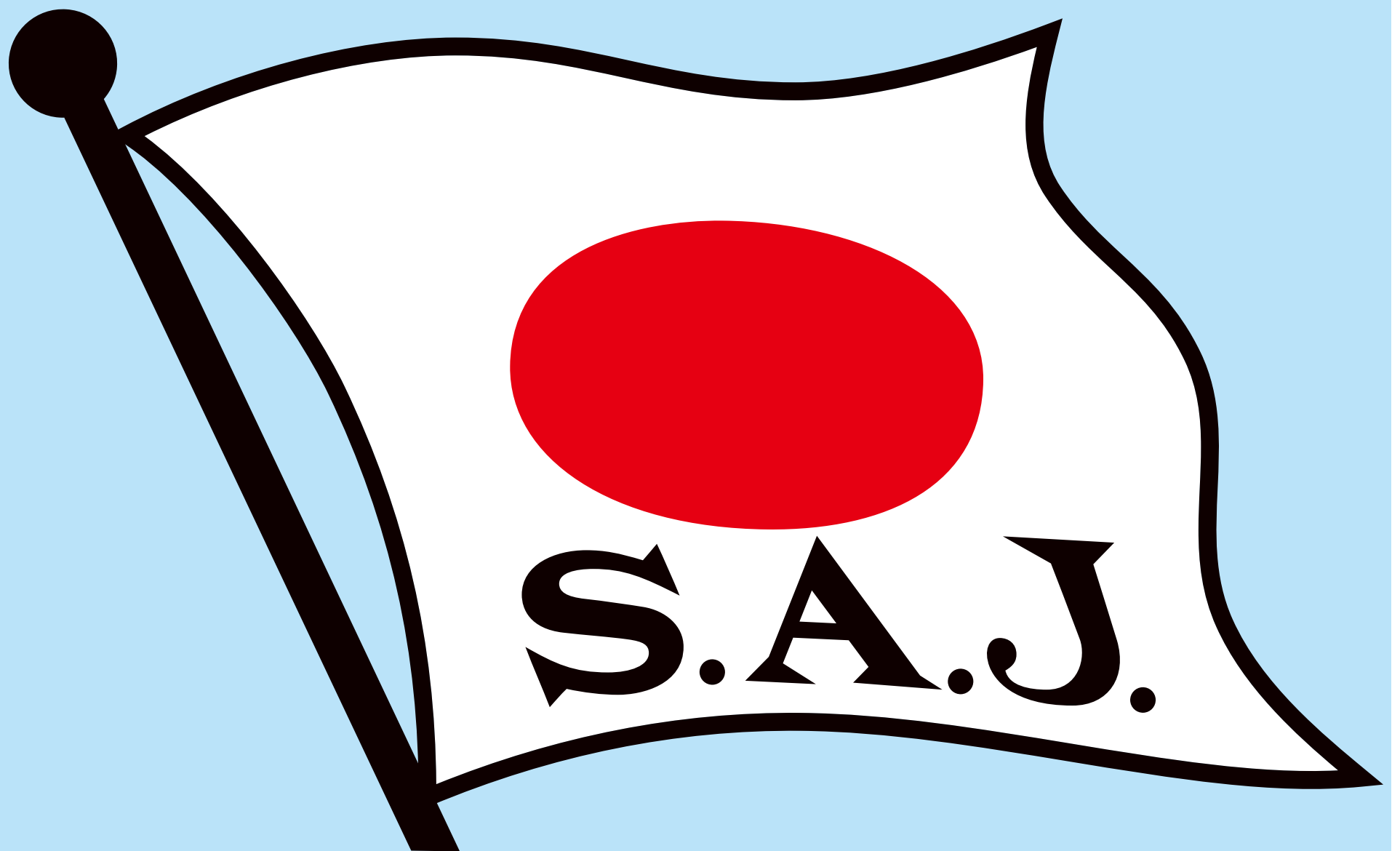


Snow Japan ^{#01} MAGAZINE



雪を愛する全ての人へ
2019-2020



SNOW JAPAN

雪を愛する 全ての人へ

SnowJapan
#01

FUTURE SAJ100
PROJECT

冬季産業と連携し、 新たな未来づくりを！

常務理事
マーケティング広報委員長
皆川 賢太郎
Kentaro Minagawa

2017年「SAJ100プロジェクト」発足

これは、会員数100万人・収入100億円を目指す全日本スキー連盟が、未来を見据えて掲げる大きなVISIONです。公益財団法人全日本スキー連盟(以下SAJ)は、1925年(大正11年)に設立され、1972年には国内初の冬季オリンピックが札幌で開催され、ジャンプ男子は表彰台を独占。強化団体として大きな歴史を生み出しました。

一方、冬季産業としては80年代～90年代にかけ一大スキーブームが巻き起こり、バブルの象徴としても総スキー人口は1800万人まで増加、小売り産業及び観光業も冬季産業としての地位を確立するに至りました。そして、堤義明元SAJ会長の手腕もあり1988年に再び冬季オリンピックが長野で開催され、史上最多金メダル3個を含む5個のメダルを獲得。冬季産業には新たにスノーボードの参入もあり、総人口は1860万人に到達、絶頂期を迎えました。

しかし一方バブルは終わり、そのシンボルの1つでもあったスキーブームは2000年以降の約17年間でスキー人口は三分の一まで減り、出口の見えない苦境に今現在も立たされています。そのような時代背景もあり、SAJは大きな転換期を迎え、北野貴裕新会長以下新たな体制でSAJ再建が始まりました。運営体制を抜本的に見直し、強化基盤の構築から財政面に至るまでの改革に乗り出し、4年前より新たにマーケティング広報委員会を発足させ、規約規定の改正やブランディング・資金調達に至るまで幅広く動ける体制づくりを行っています。従来の補助金体質や既存会員登録依存・減少傾向にある有資格者数や国の財政に頼る20年以上に渡る低迷を打破する為の重要プロジェクトとして「SAJ100プロジェクト」を発足するに至ったわけです。

冬季産業との連携に着手します！

SAJは強化育成とスキー学校など目的型資格者への教育機関だけではなく、従来の枠を越え冬季産業連携を図り普及推進のシンボルを目指します。冬季産業には様々なステークホルダーがあり、情報発信やITなどデジタル化による雪資源プラットフォームづくりを積極的に行います。冬季産業への貢献こそが選手の強化育成を構築するための唯一の道 であると信じています。『雪の上に立つ者』と共に新しい価値「SNOW JAPAN」を造り上げていきたいと願っております。

Photo：藤巻 剛 / GOH FUJIMAKI PHOTOGRAPHY

より強く！ より多くの方に！

皆様におかれましては、常日頃よりひとかたならぬご厚誼を賜り、厚く御礼申し上げます。平成から令和の時代へと変わり、新たな時代の幕が開けております。2020年を迎え、急速な環境変化の中で、本連盟は、2022年北京オリンピックに向け更なる飛躍をすべくスタートを切っております。
より強く！より多くの方に！
選手強化、スキー・スノーボードの普及・振興とい

う二大目的実現に向けて2017年より準備して参ります皆様への価値還元になると考えております。残念ながら今シーズンは、国内においては記録的小雪、世界的には未知のウィルスの脅威にさらされ、苦難の幕切れとなってしまいました。自然は時として私達人類に試練を与えますが、人生の素晴らしさや何物にも代え難い喜びを与えてくれるのもまた自然であります。人知を超えた自然というパートナーを受け入れ、今こそスノースポーツ界が一致団結し、未来に向けて進んで参りたいと考えております。皆様へは、今後も変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご発展を心よりお祈り申し上げます。

構築は、平素より本連盟にご協力をいただいております皆様への価値還元になると考えております。残念ながら今シーズンは、国内においては記録的小雪、世界的には未知のウィルスの脅威にさらされ、苦難の幕切れとなってしまいました。自然は時として私達人類に試練を与えますが、人生の素晴らしさや何物にも代え難い喜びを与えてくれるのもまた自然であります。人知を超えた自然というパートナーを受け入れ、今こそスノースポーツ界が一致団結し、未来に向けて進んで参りたいと考えております。皆様へは、今後も変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご発展を心よりお祈り申し上げます。



公益財団法人全日本スキー連盟
会長
北野 貴裕
Takahiro Kitano

レードアップを計りたいですね。

皆川: 来年はマスターズの技術選も始まる予定です。技術選はスノーボード技術選も含めて4つになります。スキー人口がいるのに埋められなかった所を開拓している感じでしょうか。

岡田: 既存のベースにどう枝葉を付けていくかー。会員が増えるチャンスをもっと作りたい、ということですね。

矢船: スキー大学に至っては全国4会場で開校され、毎年700名程度の方に受講して頂いています。準指導員以上の人がデモに教えてもらえるまたとない機会。自分の技術を磨き、研修では新たな指導法を聞けるメリットもある。最近はデモと一緒に滑って写真を撮るという、年配男性の熱烈ファンもいますが(笑)。

岡田: 一晩パーティを開催し、デモたちとゲームをしたり音楽を聴きながら交流してもらっています。毎回、会場があふれるほど盛況で、そういう時間を楽しんだ参加者たちが会員増加の伝達者になってくれれば嬉しい。デモたちも、4年に1度の世界のスキー教師の集まりであるインタースキーなどを通して、個々の魅力を高めてもらえたらと思います。

IT化によって期待される 利便性と会員の増強

矢船: 会員サービスについては、90年ものあいだ手書きしてもらっていた登録や申請を、「シクミネット」というシステムを導入して運用をスタート。研修会や検定の申し込みもシクミネットからエントリーでき、便利になりました。管理側の地域連盟からも事務処理が楽になったと喜んでもらった上に、「もっと内容を充実させてくれ」とリクエストも来ています。今以上に会員の利便性やイベントの魅力強化につなげられるのなら積極的にやりたいし、付帯する会員特典なども大いに検討したいですね。

皆川: 今、スノースポーツ人口に対して連盟の会員が1%という数字を、改めて検証しなければいけないとき。「SAJ100プロジェクト」は会員数100万人、収入100億円を目指していますが、すでにスノースポーツ人口は約800万人もいて確かなポテンシャルがある。連盟でそのニーズを汲み取って、1人でも多くの方に会員になっていただきたいですね。

矢船: 来季是北京オリンピックのプレシーズン。今は新型コロナウイルスもあり、選手が思うように練習できず大変です。

岡田: 動画を発信して、モチベーションを保っている選手もいるようですね。

皆川: 北京オリンピックでは長野やソチ五輪を超えるメダル10個を目標にしていますが、これはあくまで目標値です。大切な事ですが、選手や強化チームは日々の積み重ね以外で得られるものは無いので。私が目指す競技本部では、結果を生み出す過程に努力できる選手や強化スタッフであってほしい。他のスポーツでも名だたるスーパースターは、結果を生み出す力に加え、社会や経済など自分が置かれている環境や役割をも網羅する人間力が備わっています。競技本部にはW杯などで優勝する選手や表彰台に上がる多くの選手がいます。一方で強化コーチや我々本部も含め、国内外を通しての圧倒的な存在感や人間力を持つには、まだまだ道半ばです。北京五輪では過去最高の成績を目指すと共に『雪の上に立つ者』として、競技能力の枠を超えた人間力や社会性を育てる。そんなスキー連盟であり、競技本部でありたいと考えています。



品格の備わった、
世界で活躍する選手を育てる。
それが僕の使命
(皆川)

SKI ASSOCIATION OF JAPAN

SAJがすべきこと

3人の本部長が語るこれからのSAJ



世界大会で活躍する選手たちを 物心両面で支えていく

(矢船)



デモンストレーターの タレント化なくして 裾野教育は進まない

(岡田)



専務理事・総務本部長
矢船 保夫
Yasuo Yafune



常務理事・教育本部長
岡田 良平
Ryohei Okada



常務理事・競技本部長
皆川 賢太郎
Kentaro Minagawa

SnowJapan

#01

スノースポーツ新時代を 北野体制下で模索して

矢船: 北野貴裕さんが連盟会長に就任して4年。SAJの体制にも色々変化がありました。総務部でマーケティングを中心にやっていた皆川さんが、競技本部長になりましたね。

皆川: 強化資金を見直して組織体質を変えること、それが僕のミッションと思い、取り組んできました。新たにマーケティング広報委員会を発足し、競技本部や選手のブランディングを行いながら強化資金を増やす。幅広く動ける体制づくりですね。

矢船: 現在の運営資金は約14億円。役員全員の共通認識として、物心両面で選手の強化を充実させ、オリンピックや世界選手権でメダルを獲れる選手をできるだけ多く輩出したい。教育と競技はよく両輪だと言われますが、競技の強化をするためにはまず、小学生やジュニアの皆さんにスキーを普及させ、技術を高めてもらわないといけません。教育本部と競技本部には積極的に裾野を広げてもらい、我々総務本部はそれを円滑に盛り上げていく。

岡田: 1990年代はスキー映画やバブルの後押しもあり、連盟の会員数は約16万人。イベントや研修会をやればどんどん人が来て大にぎわいでした。ところがブームが下火になってくると、景色が一変する。業界全体がなかなか浮上できず20年経って、北野さんが再生に乗り出してくれた。企業主で一流のスキークラブも運営されている人ですから、連盟もまた、上向きになるんだろうな、と。北野さんには、実業家だった元会長の堤義明さんに似た期待感がありましたね。

矢船: 北野体制になってから、理事に税理士や弁護士、会計士、国会議員という方々が学識経験者で入るようになりました。公益財団法人として責務を全うするという観点でも、専門家からの意見やアドバイスが頂けるようになったのは良かったと思いますね。

生涯を通して愉しめる 教育・競技メニューを開発

岡田: 北野体制下で、教育本部として意識してきたことはまず、現場で指揮を執る専門委のモチベーションを高めることでした。各委員会に課題と目標を掲げて活発化させ、それが今、スキー大学の運営や技術選に生きている。ことに教育本部のメイン事業である技術選を発展させるため、矢船さんと「指導者の頂点を目指す子どもを育てたい」と、ジュニア技術選の全国大会をスタートさせて3年。選手400名、家族やコーチ陣などのギャラリーも1000人規模で集まっています。

皆川: 子どもたちがスキーを続ける、動機付けとなる大会ですね。

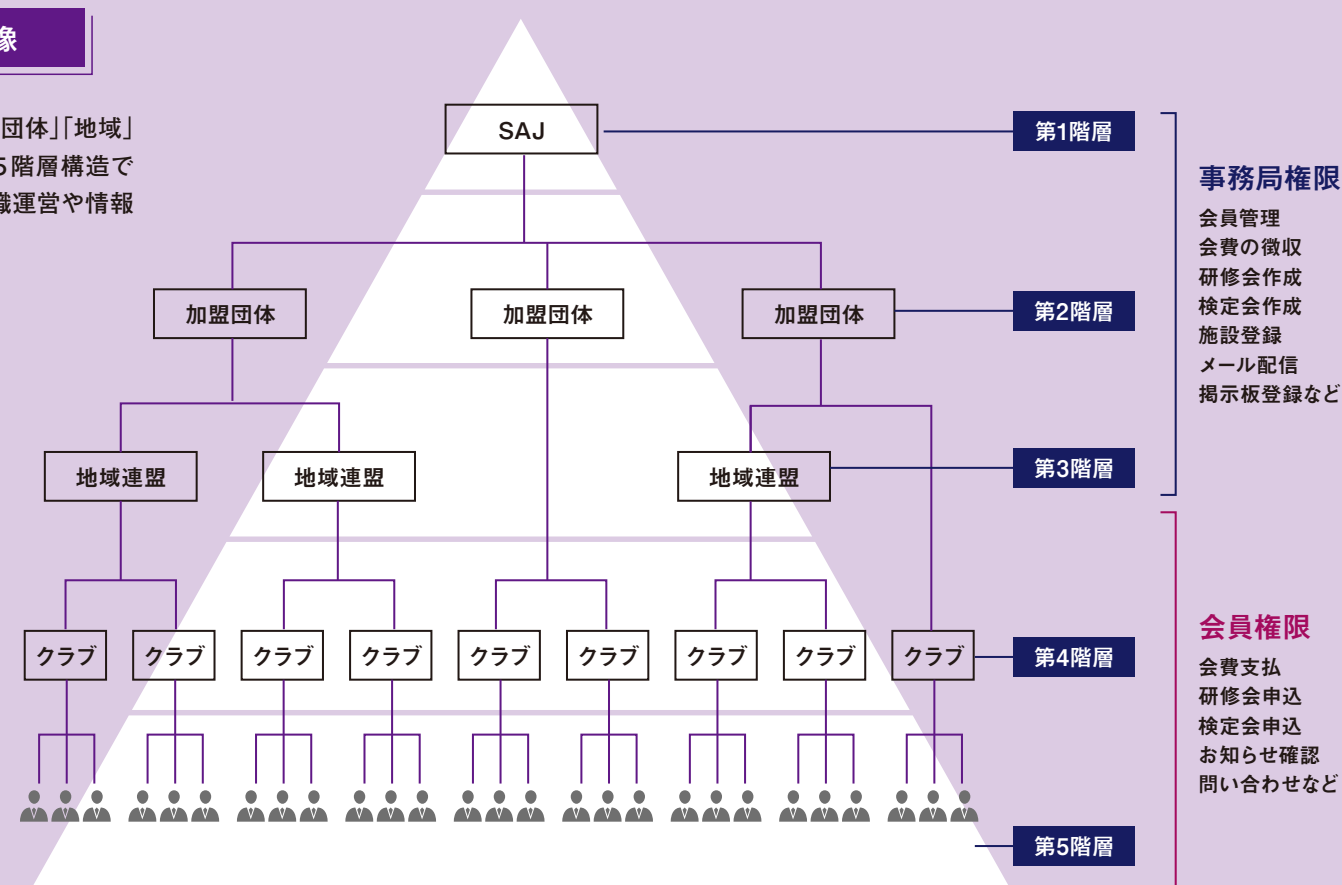
岡田: 技術選を極めた者が、デモンストレーター(以下デモ)ですからね。教育本部では、日本で一番スキーが上手く、子どもはもちろん大人からも憧れられるデモをタレント化させたい。2年前には派遣行事としてジュニアスキー教室を始め、オファーがあればデモを派遣して子どもたちと一緒に滑ってもらっています。子どもも役員も、普段見られない華麗な滑りを間近で見られて嬉しいと好評ですよ。また技術選には国際色を加えようと、中国、韓国、オーストラリアからゲストプレーヤーを招聘する予定でしたが、今季は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止に。コロナが収まったら来季には引き続き、グ



SAJ 組織とシステム

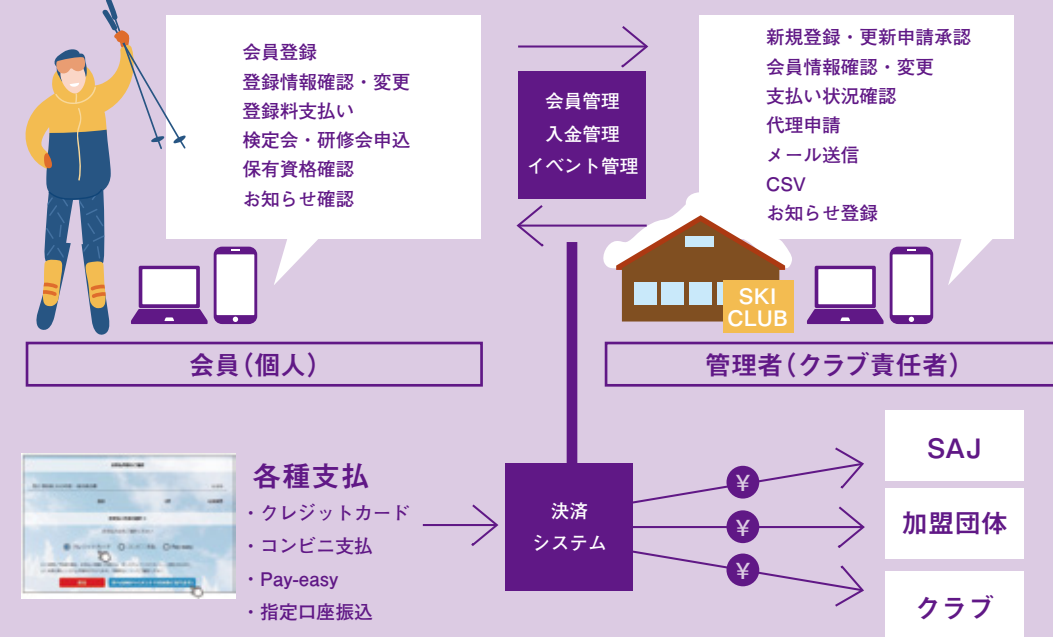
SAJ組織全体像

会員組織を「本部」「加盟団体」「地域」「クラブ」「個人」という5階層構造で管理。よりスムーズな組織運営や情報伝達が可能に。



SAJ会員システム [シクミネット]

オンラインで会員登録することにより、「会員」「管理者」それぞれの立場で各種届出、情報確認、会費の支払い／受け取りが機能的に行えます。



SAJデータバンク

SAJが管理する競技に関する情報を集めたデータバンクです。WEBページでどなたでも「選手検索」「大会検索」により・大会カレンダー・大会結果・シーズン中最新ポイント・各種お知らせなどの情報を自分で得ることができます。



会員登録システム新規導入！

会員満足度の更なる向上の為に2019年8月より新たなシステムを導入致しました。1998年のピーク時には1800万人いたスノースポーツ人口も、現状では50%以上減少し、全国では多くのスキー場が厳しい状況に置かれています。全日本スキー連盟（以下SAJ）の正会員数もピーク時の14万人から2019年時点では8万人弱と、年々減少傾向にあります。その傾向に歯止めをかける為、旧態依然としたペーパーによる会員管理システムを改め、SAJ会員登録システム（以下シクミネット）の運用を開始。シクミネットでは、SAJ組織構造に対応する為、第一階層～第五階層までの階段型の承認システムを採用しています。

加えて、会員管理・入金管理・イベント管理の大きな3つの機能も備えて有り、決済システムと連携させた事により、申込→支払→入金までをシステム上で完了させる事が出来ます。このシステムによりペーパーレス化が進み、加盟団体・地域連盟・クラブ担当者様の業務を大幅に軽減する事が出来ました。また会員個人が直接マイページへのアクセスが可能となり、SAJ加盟団体・クラブ会員がシクミネット上でのインタラクティブなコミュニケーションが実現、会員様の声がSAJの運営にも反映出来るようになりました。将来的には、追加機能として電子会員証の発行や全国・全世界公認のレースエントリーシステムの実装を検討しており、会員様の情報が集積するデータプラットフォームになります。

それらの機能を有効活用し、更なる会員満足度向上の為にCRM（カスタマーリレーションシップマネジメント）を展開し、これまでSAJを支えて頂いた既存のスキー・スノーボーダーだけに留まらず、よりライトなスノースポーツ愛好家の取り込みも積極的に行い「SAJ100プロジェクト」の根幹である会員数100万人を目指します。

SAJ 活動実績

全日本スキー技術選手権大会

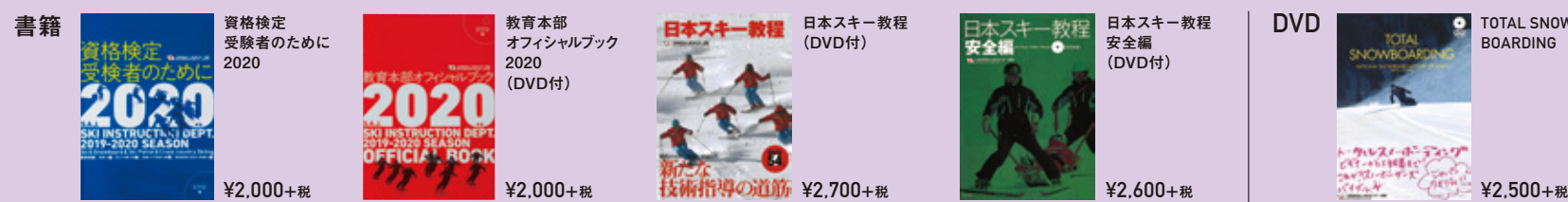


スキーヤーの自由な表現から生まれるスキー技術の「巧さ」とその進化を競い合い、年度チャンピオンを選出する国内最高峰の大会

全日本ジュニアスキー技術選手権大会



教育本部刊行物



未来のSAJのために

SAJは1925年に設立し今年で95年を迎えました。教育本部としての事業は1939年に第1回指導員検定会を開催、また大イベントの一つである「全日本スキー技術選手権大会」はその前身である第1回デモンストレーター選考会が1964年から始まり今年で57回を数え、ギャラリーも1万人を超える大会となりました。多くのスノーファンの声援を受けながら選手、ギャラリー一体型イベントを目指し、アジアを始め国際的な大会を作り上げ、「技術選」の名称を世界に発信すると共に、またアジアのリーダーとして、スノースポーツの普及を合言葉に進んで行きたいと思っています。『技術選』は、スキー、スノーボード、ジュニアそして来期からマスターズと、4つの大イベントを開催

します。スノーファンはもちろん、スノースポーツをやらない人達にも興味を持って頂き、会場に足を運び、各大会の選手である小学生からシニアたちのパフォーマンスに感動して頂ければと思います。『技術選』とは、設定された斜面に対してどのようなターン弧を描いてくるか、どれだけスキー板の性能を引き出す事が出来るか、設定バーン状況の中で効率的な滑走でより速いスピードをパフォーマンスした者に高評価が与えられ、順位が決定します。設定が限られたアルペンスキーやモーグル競技とは違い、『技術選』は、斜面の一枚バーンから、あらゆる複合斜面、さらには不整地斜面（コブ）など、様々なゲレンデを戦いの場とする大会です。また1961年から始まった「スキー大学」は、今では4会場で開催され、毎年700名を超

える事業となり、デモンストレーターによる講習やデモンストレーション、参加者（指導者）とデモとの交流の場として非常に人気のある事業に発展いたしました、デモンストレーターというタレントと雪山を堪能する事は一つの醍醐味とも言えると思います、今後はスキーだけではなく、いろいろな企画を取り入れ参加者に感激感動を与えられるような事業を目指します。これからのSAJと指導者たちの進むべき道は、広く国民に普及活動を念頭に、子供からシニア層のスノーファンと、他国にない日本のスノー環境を生かし、スノースポーツと一緒に、感動する場面を作り上げていく事が急務と考えます。今後は、教育本部から目が離せない状況となります、きつと！

Division.1

JUMPING / ジャンプ
COMBINED / コンバインド
CROSSCOUNTRY / クロスカントリー



Division.1にはジャンプやコンバインド、クロスカントリーといった北欧で生まれた伝統的なスキー競技が属する。ジャンプでは一昨季、男子において欧州勢以外で史上初の総合優勝を達成した小林陵侑が2連覇に挑み惜しくも3位に終わったが、世界のトップジャンパーとして堂々たる戦いを見せているほか、昨季2勝を挙げた佐藤幸椰といった若手も続々と育ってきている。女子ジャンプでは高梨沙羅が自らの歴代最多記録を更新する通算57勝目をマークすると同時に、女子歴代最多の100回目の表彰台にも上った。コンバインドではソチ、平昌と2大会連続で五輪メダルを獲得した渡部暁斗が依然エースとして活躍。クロスカントリーでは女子の石田正子がベテランとしてチームを牽引している。

総合優勝を目指し準備を

昨季は2年連続総合優勝を目指して臨みましたが、イメージ通りのジャンプができず、優勝は3回でした。それでもシーズン中は上位をキープ、総合3位で終えることができました。来季は2022年北京オリンピックのプレシーズン。今は練習場所もなく大変ですが、なんとか練習環境を整え、総合優勝を目指して準備したいと思います。コロナ禍の中でも温かいご支援をくださるファン、スポンサーの皆さんに喜んでいただけるよう頑張ります。



Div.1 ジャンプ男子

小林 陵侑

Ryoyu Kobayashi
1996年11月8日生まれ。
岩手県八幡平市出身。
土屋ホーム スキー部 所属



自分のスタイルを模索して

自分のジャンプスタイルを見つけ始められた昨シーズン。後半は良い感触を掴めつつあったのですが、形ばかりに囚われすぎて、動きに硬さやインパクトの薄さが目立ちました。来季はそれらの課題修正に加え、道具の変更にもいち早く対応しながら自分のジャンプを作り上げたいと思います。感染症によりまだまだ厳しい状況が続いていますが、また心からスポーツを楽しめる日が来ることを信じて、皆で力を合わせて乗り越えましょう！



Div.1 ジャンプ女子

高梨 沙羅

Sara Takanashi
1996年10月8日生まれ。
北海道上川町出身。
クラレ 所属

CROSS COUNTRY



Photo : AFP / アフロ

コーチとしても頑張りたい

昨季は夏のローラースキー大会で期待以上の成績が出せ、嬉しかったです。W杯の初戦では9位に入り幸先の良いスタートでしたが、その後は20位以内止まり。全てが噛み合うことの難しさを体感しました。昨年からコーチをさせて頂いており、同じポイントを指導しても選手によって受け取り方が変わることもあって勉強になります。若手にはもっと伸びてもらい、ファンやスポンサーへの感謝をチームとしても成績で返せるよう頑張ります。



Div.1 クロスカントリー

石田 正子

Masako Ishida
1980年11月5日生まれ。
北海道美幌町出身。
JTB北海道スキー部 所属

JUMPING

Division.2

ALPINE / アルペン
SNOWBOARD ALPINE / スノーボード・アルペン

好調さをキープし来季へ！

W杯では6度のクオリーを果たす事ができ、特に回転種目では自己ベストを更新したり、全日本選手権でも技術系種目の2冠を果たせたりと、昨季はとても充実したシーズンでした。来季の目標は、W杯では昨季を上回る10〜15位以内のリザルトを残し、最終戦に出場することです。世界選手権もありオリンピックに向けても大切なシーズンになるので、応援してくださる皆様への感謝を結果で伝えられるよう、精一杯頑張ります。



Div.2 アルペン

安藤 麻

Asa Ando
1996年4月24日生まれ。
北海道旭川市出身。
日清医療食品 所属



Photo : AP / アフロ

スキーとスノーボードそれぞれのアルペン種目が属するDivision.2。滑走タイムや純粋な速さを競うシビアな種目だけに、マテリアルの垣根を越えて手を組んで世界に挑んでいる。スキーのアルペンでは、女子の安藤麻がW杯レベルで孤軍奮闘。昨季は6レースでW杯ポイント獲得するなど、あと一步で高い世界の壁を越えられそうな戦いを見せている。スノーボードのアルペンでは、男女ともにエース不在の戦いが続いているが、そのなかでも女子の三木つばきが台頭。一昨季のジュニア世界選手権銀メダルを経て、昨季はW杯に満を持してデビューを果たした。

ALPINE

オリンピック金メダルに向けて

大会中も新しい取り組みを続け、常に自分に変化を起こすようなシーズンを心がけた昨季。少しずつ順位を上げる喜びを応援してくださる方々と分かち合ったり、5回の決勝進出の中で世界トップの選手たちと向き合ったり、本当に楽しいシーズンでした。来季はオリンピックプレシーズン。例年以上に大会結果にこだわることはもちろん、目標とする滑りを形にできるよう追求していきたいです。金メダルに向かう過程と一緒に楽しんでください！



Div.2 スノーボード・アルペン

三木つばき

Tsubaki Miki
2003年6月1日生まれ。
静岡県掛川市出身。
CATALER 所属

2022オリンピック 金メダルを視野に

変化に対する恐怖心や不安もあった昨季ですが、さらなる成長のためにトレーニング内容や技術改善に対し、思いきった変化をつけて取り組みました。結果は予想をはるかに下回る出来でしたが、失敗から学んだことも多くありました。来季は世界選手権の個人戦金メダル獲得が最大の目標。雑然と頭に浮かぶアイデアを整理し、冷静かつ徹底的にトレーニングを行います。手に汗握る展開のレースを制する姿を見て頂けるよう、最善を尽くします。



Div.1 ノルディックコンバインド

渡部 暁斗

Akito Watabe
1988年5月26日生まれ。
長野県白馬村出身。
北野建設SC 所属

Photo : EASTPRESS OY / アフロ

COMBINED

SNOWBOARD ALPINE



Ski Association of Japan



Photo：新華社 / アフロ

Division.3

FREESTYLE MOGULS ／フリースタイル・モーグル
FREESTYLE AERIAL ／フリースタイル・エアリアル
FREESTYLE SKI CROSS ／フリースタイル・スキークロス
SNOWBOARD CROSS ／スノーボードクロス

プレッシャーを自信に

昨季の結果は2シーズン連続の世界ランキング2位。1位のミカエル・キングスベリー選手からは常に1番であり続けるためのメンタルや、刻一刻と変わる状況に対応するスキーテクニックの高さを学び、改めて尊敬しました。来季は、数多い試合の中でも常にベストな状態で気持ちに余裕を持ってパフォーマンスを出し切る選手を目指します。大きなプレッシャーを自信に変え、日々の生活を有意義に過ごすことで、皆さんの期待に応えられる選手になりたいです。



Div.3
フリースタイル・モーグル男子
堀島 行真
Ikuma Horishima
1997年12月11日生まれ。
岐阜県池田町出身。
トヨタ自動車スキー部 所属

FREE STYLE
MOGULS

Photo：AP/ アフロ



より難易度の高いエアに挑戦

W杯の予選通過が昨季の目標でしたが、開幕戦のルカ大会で2位となり、その後も全戦ファイナルに進出し、W杯ランキング7位、またFISルーキーオブザイヤーを受賞することができ、とても満足しています。来季はこの経験を活かしながらも昨季の成績を過信することなく、難易度の高いエアに挑戦してW杯での表彰台獲得を目指します。私が頑張れるのは皆様のご協力があってこそ。SNOW JAPANの一員として高みに向かって頑張りますので、引き続き応援をよろしくお願い致します。



Div.3
フリースタイル・モーグル女子
川村あんり
Anri Kawamura
2004年10月15日生まれ。
東京都東久留米市出身。
チームジョックス 所属

空中でのトリックが大きな見どころのモーグルやエアリアル。複数人での同時スタートで順位を競うスキー／スノーボードクロスが属しているのがDivision.3だ。モーグルでは堀島行真が2年連続W杯総合2位と世界のトップに君臨している。王者ミカエル・キングスベリーとのデッドヒートは今季も見られそうだ。また、女子ではW杯デビュー戦でいきなり2位となった川村あんりの急成長が見られ、今季から平昌五輪メダリストの原大智が復帰するなどトピックスには事欠かない。エアリアルは競技の普及も大きな課題。スキークロスではアルペン競技から転向した須貝龍が昨季W杯自己最高の5位となった。一昨季4位を記録しているスノーボードクロスの高原宜希とともに、さらなる躍進が期待される。



スキークロスでメダル奪取

メンタル面、技術面で大きく成長ができた昨季。シーズン前半では思うようにいかないレースが続きましたが、遠征の合間に改善点を模索し取り組んだ結果が、レースを重ねる毎に結果として残せたことは自信に繋がりました。来季はスキークロスへ転向して3シーズン目。競技への理解も少しずつ深まり、大きな飛躍への準備が整ってきたと感じています。まずはW杯優勝、そして世界選手権でのメダル獲得に向けて、皆さんに感動を与えるアスリート目指して精進して参ります。



Div.3
フリースタイル・スキークロス
須貝 龍
Ryo Sugai
1991年12月11日生まれ。
新潟県胎内市出身。
チームクレブ 所属

Division.4

FREESTYLE HALFPIPE & SLOPE STYLE ／フリースタイル・ハーフパイプ & スロープスタイル
SNOWBOARD HALF PIPE ／スノーボード・ハーフパイプ
SNOWBOARD SLOPE STYLE & BIG AIR ／スノーボード・スロープスタイル & ビッグエア

自分のやりたい技をやる！

昨シーズンは全体的に良い成績が残せ、やりたい技もできて良かったです。そして最後のUS OPENで優勝できたことがとても大きかった。この結果は間違いなく今後に繋がると思います。来季は大会の成績も大切ですが、技としてはただクルクル回るだけでなく、カッコ良さなども表現していきたいです。ファンやスポンサーの皆さんに活躍している姿を見せられるように頑張りますので、来季も応援、サポートをよろしくお願いします。



Div.4
スノーボード・ハーフパイプ男子
戸塚 優斗
Yuto Totsuka
2001年9月27日生まれ。
神奈川県横浜市出身。
ヨネックス 所属



Photo：新華社 / アフロ

W杯初出場、緊張のシーズン

応援して下さる皆様、いつもありがとうございます。初めてのW杯出場で緊張しましたが、色々な場所で滑り経験を積み事で、大会での戦い方を学ぶことができました。ユースオリンピックでは目標としていた優勝ができ、嬉しく思います。来季は様々な状況に合ったルーティーンを組めるように持ち技を増やし、技の完成度や難易度を上げ、常に安定した滑りができるようにしたいです。昨季以上の成績を残すためトレーニングに励んで、怪我なく楽しく、格好良いスノーボードができるよう頑張ります。



Div.4
スノーボード・ハーフパイプ女子
小野 光希
Mitsuki Ono
2004年3月5日生まれ。
埼玉県吉川市出身。
バートン 所属



Photo：AP/ アフロ

SNOWBOARD HALF PIPE

応援を糧に新たな技に挑戦

昨季は新しい技に挑戦することを目標にスタート。『失敗して成績が出せないかも』という不安はありましたが、今までで一番納得のいく成績と実力でシーズンを終えることができました。来季是北京オリンピックに向けての準備期間、成績を出しながらポイントを貯め、その間にも新しい技が習得できるよう励みます。皆様の応援が毎日のトレーニングの力の源です。私も感動をしてもらえ、誰かの支えになれるよう、日々成長、挑戦していきます。



Div.4
スノーボード・スロープスタイル／ビッグエア女子
鬼塚 雅
Miyabi Onitsuka
1998年10月12日生まれ。
熊本県熊本市出身。
星野リゾート 所属

Photo：AP/ アフロ



Photo：アフロ

W杯でBIGAIR 2連覇

昨季は滑りに安定感が出て、大会では確実にBSW1080を決められました。しかしジブセクションは海外選手に比べ、まだまだ劣っています。今まで決勝で使っていた技を今後は予選からでも使えるように完成度を上げ、新しい技にも積極的に取り組んでいきます。またパフォーマンス向上のための体作りも目標です。たくさんの応援、サポートのお陰で、W杯では総合優勝(BIGAIR)2連覇できました。来季も嬉しい報告ができるように頑張ります。



Div.4
スノーボード・スロープスタイル／ビッグエア女子
岩渕 麗奈
Reira Iwabuchi
2001年12月14日生まれ。
岩手県一関市出身。
バートン 所属

FREE STYLE
SKI CROSS

12

13



*Thank you for everyone
who loves snow.*

より早く。より高く。より美しく。より遠くへ。

過酷な修練。世界の壁。自分との闘い。立ち向かう日々。

それらの全てはあなたの支えがあつてこそ。

今、私達に出来る事。

昨日を意味あるものとし、今日に希望を見出し、未来を創造する。

苦難が時に思いもかけない姿を現したとしても

私達は前に進みます。

ひとりではたどり着けないその先に向かって。

いつも見守り支えてくださる人達に、心を込めて。

雪を愛する全ての人に、ありがとう

